

2014年(平成26年)11月5日 No.661

# 第3四半期決算概要

## 当四半期決算に関する定性的情報

当第3四半期連結累計期間におけるわが国経済は、消費税増税前の駆け込み需要の反動がみられたものの、政府の経済対策などにより、輸出や生産の持ち直し、企業収益の改善など、景気は緩やかな回復傾向で推移しましたが、中国をはじめとする新興国の成長率鈍化や欧州や中東における地政学的リスクなど、景気の先行きは不透明な状況にあります。

このような状況の中で、当社グループは、「日米中亜4極体制 新たなステージへ For the Next Stage」をテーマに、中期経営計画の各種施策に取り組んでおります。

その結果、当第3四半期連結累計期間の売上高は33,530百万円(前年同期比2.9%減)、営業利益は1,500百万円(同8.2%減)、経常利益は1,678百万円(同13.1%減)、四半期純利益は957百万円(同11.0%減)となりました。

- 【産業機械】売上高は27,781百万円(前年同期比5.6%減) 営業利益は1,816百万円(同7.7%減)  
 【建設機械】売上高は5,712百万円(前年同期比13.2%増) 営業利益は313百万円(同28.7%増)  
 【その他】売上高は36百万円(前年同期比8.5%増) 営業利益は18百万円(同19.3%増)

## 平成26年11月期第3四半期の連結業績(平成25年12月1日～平成26年8月31日)

連結経営成績(累計)

(百万円未満切捨て)

	売上高	営業利益	経常利益
26年11月期第3四半期	33,530 百万円 △ 2.9%	1,500 百万円 △ 8.2%	1,678 百万円 △ 13.1%
25年11月期第3四半期	34,518 百万円 11.9%	1,635 百万円 △ 4.5%	1,931 百万円 5.3%

	四半期純利益	1株当たり四半期純利益
26年11月期第3四半期	957 百万円 △ 11.0%	105 円 59 銭
25年11月期第3四半期	1,075 百万円 13.6%	118 円 63 銭

(注) パーセント表示は、対前年同四半期増減率

# 今月のことば

## 乾 相談役

### ○ 当たり前の大切さ

当たり前のことを、当たり前に行うことが、当たり前のことではあるが、極めて重要であるにも拘らず意外に出来ていないことが多い。地道な仕事になるが、当たり前のことを確実にすることが重要である。目立つことも大事ではあるが、当たり前のことをやるのが、もっと重要なことを認識してもらいたい。人と会えば挨拶する、打ち合わせでは議事録をとる、仕様と条件の確認を徹底する、報告すべきことは正確かつ迅速に行う、決められた規定やルールはきちんと守る、数え上げればきりが無いが、これらは全て当たり前のことである。当たり前のことをいつもきっちりと出来ている人と、出来ていない人とでは周囲の見る目が違ってくる。スポットであれ大きな仕事であっても、その場しのぎで当たり前のことをおろそかにしておれば、いずれ衰退していくことになる。当たり前のことを確実にやっている人が、長期的には成功する。

### ○ 当事者意識を持つ

仕事には役割を担当すると同時に責任が発生する。もし、担当者がいてもいなくても、業務にあまり支障が生じなければ、その人の必要性がほとんど無いことを意味する。その人に仕事が回ってくるということは、その人が仕事を進める上で必要とされるからである。必要とされる以上は当事者意識と責任感の強さが重要になる。自分の意見が無くて誰が言っている、或いは先方から

言われることをそのまま単に伝達するだけでは、その人の存在価値は極めて低い。仕事をする上で、これは自分がやらなければいけないと当事者意識を持てば、更に一層良い発想が浮かんでくる。地位が上がれば上がるほど、当事者意識が無ければ社内外での信用を失うことになる。「余人をもって代え難し」という言葉がある。当事者意識を強く持ち存在感のある仕事ぶりで必要とされる人になろう。いつの世の中でも、必要なものは繁栄し、不必要なものは衰退する。

### ○ 欲を持つ

「もっとやろう」と「もう十分」とでは将来大きな差となってくる。当社は海外市場が主力であり、とりわけ自動車業界との関係が深い。取り巻く環境を「天の時、地の利、人の和」で見ても、為替の円安傾向、経済成長地域に拠点がある、海外経験者が多い、と絶好の条件が揃っている。これから見たら数字が横這いや3%や5%程度の増で良いのだろうか。もっと数字が伸びてもおかしくないのではないか。我々の周りには今後大きく成長が期待できる環境があり、チャンスでありながら結果が出ていないのは、欲が少ないのではなかろうか。或いは誰かがやるだろうと意欲に欠け安易な気持ちでいるのではなかろうか。「もう」ではなく「もっと」という欲を持って努力することにより、業績が向上し、自らの成長につながる。良い意味で欲を持ち、高い目標に向かって前進しよう。

# マルカの動き

## 10月

### 動き

- 10月 1日：2015年新卒者内定式
- 10月 3日：第3四半期決算発表
- 10月17日：計画委員会
- 10月22日：35才未満定期健康診断
- 10月28日 } MM会総会
- 10月29日 }

### 表彰

#### ◆ 殊 勲 賞

- |                 |         |
|-----------------|---------|
| 名古屋産業機械第一部 部長   | 佐藤 春樹   |
| 大阪建設機械部 担当部長    | 杉山 忠広   |
|                 | (※2本受賞) |
| 大阪産業機械第二部 第二課課長 | 坂口 光夫   |
|                 | (※2本受賞) |



		タイ	インドネシア	マレーシア	フィリピン	台湾	上海	備考
GDP成長率 (%)	2013年	3.7%	5.9%	4.6%	6.9%	1.74%	7.6%	推定値
	2014年	4.5%	6.2%	5.1%	6.5%	2.59%	7.3%	予測値
物価上昇率 (%)	2013年	2.3%	7.3%	3.5%	3.2%	0.8%	2.7%	推定値
	2014年	2.8%	6.7%	3.5%	4.5%	1.0%	3.1%	予測値
為替相場 (対米ドル)	14/8/10	B31.95	PR11,490	M\$3.33	P43.650	NT\$30.07	RMB6.150	1\$=102.16円
	14/9/10	B32.26	PR11,759	M\$3.33	P43.580	NT\$30.00	RMB6.353	1\$=106.12円
	14/10/10	B32.57	PR11,875	M\$3.33	P44.74	NT\$30.50	RMB6.129	1\$=107.80円
	今後の傾向	→	↘	→	↗	↘	↗	
短期金利		2.00%	7.50%	6.25%	1.18%	4.13%	5.60%	
	今後の傾向	→	→	→	↘	→	→	
失業率		1.00%	6.00%	3.10%	7.50%	4.08%	4.50%	

## マルカ駐在員からのコメント

8月の自動車生産台数は前年同月比マイナス27.1%と、14ヵ月連続で減少した。8月生産台数の車種別内訳は、乗用車が34.1%減、ピックアップトラックやトラックは21.9%減となっている。

タイ工業連盟(FTI)は2014年の自動車生産台数を210万台に下方修正すると発表した。FTIは7月にも生産台数の予測を240万台から220万台に下方修正したばかりである。その理由の一つとして、農作物の価格下落、政府の予算執行の遅れによる景気減退を挙げ、公共投資による景気刺激が必要との認識を示した。

インドネシア商工会議所ジャカルタ支部は、近く始まる首都ジャカルタ特別州の2015年州最低賃金交渉で、経営側が前年比10~11%増を提案することを明らかにした。14年の州最低賃金は前年比11%増の月額244万1,301ルピア(約2万2,000円)で10~11%増の場合は約268万~271万ルピア程度になる。ただ、労働者側は30%増とかけ離れた水準を要求しており、対立は必至だ。自動車分野にとっては、燃料補助金の削減、高速道路料金の値上げ8~9月と前年割れした自動車販売台数の影響と合わせて、今後の動向が心配な案件となっている。

マレーシア自動車協会(MAA)の発表によると、会員企業による2014年9月の自動車販売台数は4万9,479台となり、前年同月比で8.4%の減少となった。MAAは9月の販売台数が落ち込んだことについて国民車メーカーの「アイルス」とプルサハン・オトモビル・クドゥア(プロドゥア)の「アジア」の発表待ち、2015年度予算案を控えた模様眺め、自動車ローン審査の厳格化が影響したと分析。一方、10月の見通しについては、引き続き自動車ローン審査の厳格化に悩まされるものの新型車の納車が進むことから9月の水準は上回ると予想した。

日系4社に台湾系キムコを加えた自動二輪開発計画参加社協会(MDPP)加盟5社の9月の新車販売台数は前年同月比4%減の6万3,917台だった。自動車販売が4割増の勢いの中、対照的である。

フィリピンでは二輪車を割賦で買う割合が高く、金融機関の貸し出し条件として正規雇用が求められる。正規雇用労働者数や低所得層の収入が増えていないことから「経済成長の恩恵は自動車を購入できる富裕層に偏っており、低、中所得層の購買力は増加していない。これが二輪車販売が伸び悩んでいる原因だ」と業界関係者は指摘する。

保険大手のアリアンツが24日発表した「世界遺産報告」で、台湾の国民1人当たりの金融純資産は2013年時点で6万6,010ユーロ(約920万円)と世界7位、アジアでは日本に次いで2位だったことが分かった。50以上の国・地域を対象に行ったこの調査によると、台湾の金融資産は2007年以来、4,780億ユーロ(約66兆6,700億円)増加している一方、2000年末以降の資産の年平均成長率は、アジアワースト2位の6.6%にとどまる。

国民1人当たりの金融純資産の上位5ヵ国は順に、スイス、米国、ベルギー、オランダ、日本であった。

国際通貨基金(IMF)は、世界経済見通しで、2014年の中国の実質経済成長率を7.4%とした。IMFは「成長率7%超を保障するだけの十分な政策余地が中国政府にはある」と指摘。中国の不動産市場に存在するリスクについても「それほど深刻なものではない」と分析した。

一方で、IMFの李昌庸・アジア太平洋局長は中国不動産市場の熱が冷めたのは、段階的な経済調整の結果の表れであるとして、「中国経済にハードランディングは発生しない」と断言。アジア周辺国にとっては、中国と競争する機会を得ることにつながり、より多くの外資を呼び込めるとの見方を示した。

## 中国全体会議 2014-2 開催

まだまだ日中の気温が30℃を優に超える広州で、9月27日(土)広州マルカ事務所にて年に2回のマルカ中国全体会議を開催致しました。本社から釜江会長に出席頂き、マルカ中国の駐在員9名と、広州マルカの中国人管理職2名合計12名にて前回4月の会議の内容を踏まえ、今回も約3時間半みっちり議論が繰り広げられました。

今後の課題としては、益々客先中国人御担当者、又台湾系企業、中国系企業との取引が増加することを視野に入れ、基本に戻りまずは日本人が率先して行動の規範となるよう各々が自覚すること、それを見てナショナルスタッフもPDCA等を今まで以上に極め細やかに実施していくこと、組織として、又個人としてのレベルアップが必修とすることで一致致しました。又、少ない人員活用として代理店活用などのタイアッ



プ事業の検討他、具体的な意見も多く出されました。

今後も四極体制における中国の実績割合を1%でも多くするためにナショナルスタッフを含めたマルカ中国全体として一丸となり、次回来年4月の全体会議には今回の会議で掲げた課題が各人、各拠点においてクリアし、また一ステップ上がったマルカ中国会議になることを祈りながら日々邁進していく事を再認識して散会となりました。

## マルカ・タイ社 タイMM会 (TMM会) を発足

マルカ・タイ社は、この度10月1日付でタイMM会(TMM会)を発足させ、10月7日にバンナ・コンベンションセンターにて発足式兼懇親会を開催しました。

TMM会は、タイ国内にてモノづくりをされている優れた専門技術を有するメーカー様及びサービス会社様の計12社と相互に信頼関係を持って企業発展を目指すために構成されました。今後は、タイ国内外において、会員様の有する機械・装置・技術の市場への普及を図り、販売拡大を行っていく所存であります。



### 会員企業様(アルファベット順)

Chiyoda Kogyo (Thailand)Co.,Ltd.	パイプベンダーマシン
Cosmo(Thailand)Co.,Ltd.	プレス修理・サービス
Denyo Asia Co.,Ltd.	サーボスポットガン他
Eureka Design Public Company Limited.	各種専用機
Kanto Engineering (Thailand) Co.,Ltd.	重量物移設サービス
Nastoa Welding Technologies(Thailand)Co.,Ltd.	スポット溶接機
Nissen Kohki Thai Co.,Ltd	各種専用機
Robot System Co.,Ltd.	自動化ロボットシステム
Sorime (Thailand)Co.,Ltd.	各種専用機
Takahashi Metal Industries(Thailand)Co.,Ltd.	洗浄機
Thai Takigami Co.,Ltd	溶接専用機
Tochu Thailand Co.,Ltd.	ショットブラスト機

# 2014年度MM会総会

雲一つない秋空の下、MM会総会を10月28日、29日にわたって滋賀県長浜の地にて開催いたしました。当日はMM会会員の高橋金属様本社工場にお邪魔して、この夏竣工した新工場を中心に3つの工場を見学しました。特に女性が働きやすい職場環境に配慮して、明るさ、清潔さを徹底している工場を隅々まで見せていただき、他の会員様も一様に感心されていました。総会では1年ぶりとなる会員皆様の近況をお聞かせいただいた他に、今後の会の運営についての提案など、積極的な意見交換が行われました。MM会も1997年の発足以来17年の歴史を重ね、会員様も17社に上る会に成



長いたしました。その後の懇親会でも、特色ある会員様の技術力とマルカキカイの国内外営業ネットワークを掛け合わせて、お互いの発展に向けた活発な議論ができた総会となりました。

## 南海トラフ地震に対応した代替輸送訓練参加

当社は、大規模災害対策ガイドラインを上流とし、BCP(事業継続計画)規程として「首都直下(東京湾北部)地震」、「南海トラフ巨大地震」版を策定しています。

海外向け売上が65%を占める中、首都直下型地震・南海トラフ巨大地震等の同時被災確率の少ない日本海側地域に対応した、コンテナの輸出・輸入に対して危機管理対策機構、国土交通省北陸地方整備局主催による代替輸送訓練に、10月27日(月)本社関係者が参加いたしました。①代替輸送の必要性の気づき②代替輸送、物流ルートを変更する際の課題に対する問題解決③北陸のそれぞれの港が一体となって連携して代替の受け入れをする仕組み(仮称:北陸広域港湾連合)の検討、事業継続を確実に実行するための参加者同士の体験共有・意見表出等を目的としました。

訓練には国際コンテナ貨物を扱う荷主企業や、行政機関の実務者ら約100名が参加。荷主、物流会社、海貨業などの役割を模擬的に体験し、発災直後から10日後までの対応を確認しました。



東日本大震災以降、災害時における組織間の「連携」が強く求められ、連携強化に向けた取り組みが各方面で加速しています。災害対応において必要な情報とは?情報共有を支える体制やシステムの在り方について東日本大震災での実際の対応から得られた教訓を、今後有事の際の特定者の仕事でなく、平時の業務に反映し代替者でも可能な仕組み作りに取り組みたいです。

11月25日(火)には、東京支社の関係者が、首都直下型地震に対応した代替輸送図上訓練に参加する予定です。

# 役員の若い頃のエピソード 2.

四極の責任者の方に、若い頃の苦勞したエピソードを紹介頂き  
仕事へのインスピレーションやヒントになればとご披露頂きました。



中国営業本部統括

**難波 経久**

1979年(昭和54年)入社

マルカ入社後、当初は建設機械営業に携わっていましたが、急遽、産業機械部門への配置転換を言われ、また一から出直し。

明けても暮れても新規訪問、建機ユーザーとは異次元の世界、専門知識不足もあり「無理かな」と悩んでいた矢先、大手自動車部品会社から19万円の注文を頂くことが出来ました。これが産機初受注。順調??に営業も楽しくこなしていたある

日、そのユーザーで大問題が発生し、マルカは全グループ出入り禁止にされると言われたが、結局相互の誤解だった事がわかり一件落着。当時食事でも喉を通らないくらい悩み、「正に好事魔多し」を痛感したものでした。

数年後そのユーザーから3億円の大口案件を受注でき、携帯もPCもない時代、客先から「V」と書いた1枚のFAXが入り感謝感激。物の大小でなく受注という感動は、営業でしか味わえない特権だと思つづく思います。

30数年間営業に携わり今でも一喜一憂していますが、地道に努力すれば必ず報われるという信念にこれからも誠心誠意頑張つて参りたいと思います。



建設機械本部長

**吉儀 裕之**

1977年(昭和52年)入社

(若かりし頃)

先日、川崎のジャパンレンタル(株)で、管理本部の某課長と食事をしたときに、いきなり「本部長はよく生きていますね?」と言われ、「どうして?」と聞き返すと「課長時代の本部長は、誰の言うことも聞かず好き勝手していましたよね」と言われ、そんな事もあったなあと改めて思い出しました。

当時の私は、数字さえ達成すれば何をしてもよいという勘違いの極みでした。そんなときに聞かされたのが「今月のことば」でした。そのなかに山道の話があり、『人間は山を登るときは、頭を下げてかがんで昇るが、下るときは頭を上げてそりかえって降りてゆく。』人生も同じで天狗になっていると、どンドン下がって行くという話を聞き「あっ!」と思う事がありました。

それ以後なにかにつけ、この言葉と向きあうようにしております。ただこの言葉の本質がうっすらと見えはじめたのは、最近のような気がしますが。

# 2015年新卒者 内定式

10月1日に2015年新卒者の内定式を執り行いました。内定者は総合職8名・一般職3名の計11名です。

冒頭、竹下社長から「異なる発想でチャレンジする。」を贈る言葉として以下の挨拶がありました。「近年、大胆なことはせず、周囲に流され無難に同じような行動をとる様子が時々見られますが、そのような考えは今ここで捨て去り、今日から入社式までの6ヶ月間は『異なる発想でチャレンジする。』を社会人への準備運動だと思って常に実践して下さい。

物事に出会ったならば『①他に使い道はないか。②他からアイデアが借りられないか。③変えてみたらどうか。④大きくしてみたらどうか。⑤小さくしてみたらどうか。⑥他のモノで代用できないか。⑦入れ替えてみたらどうか。⑧逆にしてみたらどうか。⑨組み合わせしてみたらどうか。』の9項目で発想してみる事です。

発想はすればするほど豊かになり、今までと異なる発想での様々なチャレンジが、今後は益々重要になってきます。

マルカキカイは商社です。提案力の豊さで勝負が決まります。

チャレンジすることは若さの特権であると同時に、人間にとっての『学び』の原点です。様々なことに好奇心を持って果敢にチャレンジし、時には失敗することを通じて人間としての『学び』を深めてほ

しいと思います。

マルカキカイで活躍するフィールドは、国内だけでなく海外が中心となります。

日本を離れればダイバーシティ(多様性)を強く感じる中での仕事と生活を送ることになりますが、そこで能力を発揮するためには、自分の能力を磨くこととともに、他人の能力を理解することも重要になります。

その際にも常に発想の転換を図る『異なる発想でチャレンジする。』ことが基本です。

最後に、時間は万人に一律1日24時間です。時間は有効に使って下さい。」と、内定者へ厳しくも、期待を込めた言葉を送られました。

内定者は緊張した面持ちではありましたが、それぞれが入社までに取り組むことや入社後の抱負などの発表と自己紹介を行いました。

内定式後には、日本経済新聞社の講師を迎えて「日本経済新聞の読み方」と題し、研修を行いました。内定者研修の一環として11月から3ヵ月間、日経新聞を各内定者の自宅に配送します。入社までに新聞を読む習慣を身に付けて、経済・社会のことを勉強してもらいたいと思います。

入社まで残り半年ですが、様々なことにチャレンジをして、来年4月の入社式には全員が元気な姿で再会できることが楽しみです。